

---

# 第43回報道機関懇談会 土木広報センターの役割について

2015年11月4日(水)

11:00~12:00

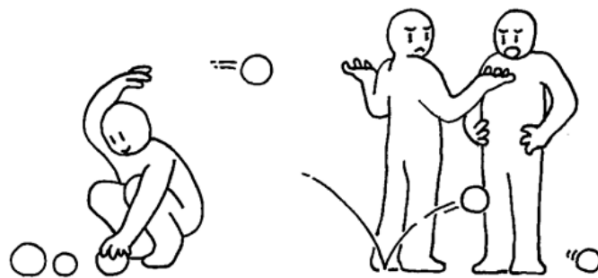
土木学会A会議室

# 土木広報センターの設立

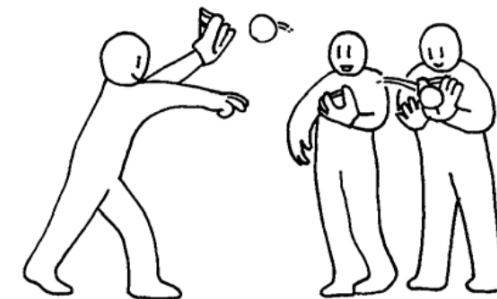
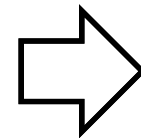
- 2015年6月15日に「土木広報センター」を設立
- 土木界が一体となって取り組む広報の中核となる組織の活動を開始
- 土木界の広報活動を支える常設組織は「土木の日」制定時の土木学会企画広報室(1987年～2005年)以来10年ぶり
- 英文表記はCommunications and Public Relations Centerとして、土木学会の英文表記 Japan Society of Civil Engineersと組み合わせて使用することで日本の土木界の広報センターであることを表す

# 土木広報アクションプランの目的

- 土木界から国民・利用者に「伝わる」ことを目指し、国民・利用者が何を求めているかが「伝わる」広報を考えることにより、「相互に利益をもたらす双方向のコミュニケーション」を実現し、ステークホルダーとの間に継続的な信頼関係を築く。



「伝える」  
一方的な情報発信  
ではなかったか？



「伝わる」  
互いを認識した  
双方性のある広報に！

# 土木広報アクションプランの目標

---

1. 東日本大震災の経験と教訓を継続的かつ効果的に国民に(次世代を含む)伝える。
2. 社会資本の果たしてきた役割と意味を、正確にかつわかりやすく国民に伝える。
3. 今後必要な社会資本整備について、真に必要な暮らしを支えるものとして国民に伝える。
4. 社会資本整備に係わる関係者の役割や活動を国民に伝える。

# 土木広報アクションプランの 対象者と対象別メニュー

	Ⅰ 重点対象者 (東日本大震災の経験と教訓を伝える)	Ⅱ 特定対象者 (特定世代・地域にかかわる)	Ⅲ 一般対象者 (不特定多数)
<b>A 当事者</b>	<b>A-I 土木関係者</b> 1) 土木関係者への広報研修の実施 2) 土木界内の広報に関する情報共有 3) 最高広報責任者の明示	<b>A-II 工学系高校生・大学生</b> 4) 学生向けの特別授業やセミナー等	<b>A-III 土木マニア・ファン・シニア</b> 5) 土木検定の実施 6) 体験ツアー等の実施
<b>B 中間</b>	<b>B-I 家族・主婦</b> 7) 誤解や不正確な情報には正確な情報を提供する。 8) 一般の女性が関心のある内容で土木を広報 9) ファミリーデー(社員の家族による会社訪問日)の開催 10) “Facebook”“twitter”公式アカウントによる情報提供 11) 災害時広報体制の確立	<b>B-II 幼児・小学生・中学生・高校生</b> 12) 学校の図書館に所蔵できる土木図書を作成 13) 教育指導者向けの学習会の開催や教材開発 14) 教育素材の提案、企画づくり 15) 土木技術者を講師とした土木教室の開催 16) 国語辞典における土木の意味と用例の提案、普及	<b>B-III 一般市民・利用者</b> 17) 観光と一体となった現場見学ツアーの実施 18) 100万人の市民現場見学会の改善 19) 土木に興味のある著名人への土木イベント招待や執筆依頼 20) 道の駅やSA/PA、駅での情報発信 21) 生涯学習で地域の土木を素材化 22) 土木用語のWikipediaへの投稿 23) 電車のつり広告の掲載 24) 土木共通のシンボルマーク・シンボルロゴ・ゆるキャラの制定 25) 工事に携わった土木技術者の氏名を記した銘板の設置
<b>C 第三者</b>	<b>C-I 報道関係者・識者・作家</b> 26) 記者との懇談会の実施 27) 記事にされやすい情報発信 28) 識者向けの情報発信	<b>C-II 地方報道関係者・利害関係者・地域住民</b> 29) 地方報道記者との勉強会 30) 第三者による検証や再現が可能な説明資料の提供	<b>C-III 世論・輿論</b> 31) 土木知識に関する対応窓口設置 32) テレビ情報番組の制作 33) 番組制作会社へのはたらきかけ

# 土木広報センター設立の趣旨

- 社会と土木の100年ビジョンーあらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築くー(土木界、土木学会、土木技術者が今から行動すべき事柄)
  - ①市民、メディアとのコミュニケーションの推進ー不言実行から有言実行へー
  - ②社会の技術リテラシー向上への貢献
- JSCE2015ーあらゆる境界をひらき、市民生活の質向上を目指すー(土木学会の活動目標と行動計画)
  - 重点課題:価値ある情報発信と情報収集機能の構築と運用
    - ー社会のインフラに対するニーズを的確に把握し、学会内の有機的結合で整理されたシーズや新たな検討成果に基づき情報発信をする仕組みの構築を行います。
- 土木広報インフラ(戦略と施策・組織体制・仕組み)の構築

# 課題解決に向けて 土木広報センターの役割

---

- 土木広報全般の主導的組織の設置
  - 土木広報センター／土木広報戦略会議（編成中）
- 土木広報全般の戦略案の立案と共有
  - 土木広報センター／土木広報戦略会議（編成中）
- 広報ノウハウ、情報の集約・活用
  - 土木広報センター／土木広報連絡会（編成中）
- 広報活動の連携・推進
  - 土木広報センター／土木広報連絡会（編成中）

# 土木広報センター設立後の 土木学会コミュニケーション部門

土木広報の組織	機能グループ等の名前	組織の機能:リーダー・グループ長
土木広報戦略会議	(編成中)	土木界のリーダーを集め、戦略を決定
土木の日実行委員会	(平成27年度は経過措置として継続)	「土木の日」「くらしと土木の週間」
土木広報連絡会	(編成中)	主に学会内の連絡・調整
<b>土木広報センター</b> (非常勤) センター長 センター次長 グループ長 センター員 (常勤) センター長補佐 山本佳正 センター職員 佐藤雅泰	センター長	依田照彦(早稲田大学)
	センター次長	小松淳(日本工営) 五道仁実(国土交通省) 島谷幸宏(九州大学)
	企画グループ	土木広報戦略の検討・立案、報道機関懇談会、全国大会企画等従来の本部事業: 大幢勝利(労働安全衛生総合研究所)
	情報集約・発信グループ	情報収集および情報発信、土木学会Facebookページ運営、学会サイト群運営支援等: 小松淳(日本工営)
	社会インフラ解説グループ	社会インフラに係わる正確な情報、解説の展開、土木のパフレット、土木史・土木遺産他、出版・映像企画支援: 緒方英樹(全国建設研修センター)
	市民交流グループ	市民交流事業、100周年継続事業をサブグループに: 島谷幸宏(九州大学)
	ー未来のT&Iコンテストグループ	宮田喜壽(防衛大学校)
	ー市民普請大賞グループ	萱場祐一(土木研究所)
	ー土木コレクショングループ	樋口明彦(九州大学)
	ーどぼくカフェグループ	高橋良和(京都大学)
	土木広報アクショングループ	土木広報アクションプランのモニタリング及び推進(国語辞典、土木ツアー等): 佐々木正(国土技術研究センター)
(仮称)土木の魅力グループ	社会コミュニケーション委員会、教育企画・人材育成委員会、建設マネジメント委員会 合同の次世代技術者対応:未定	
解説委員	経験豊富な解説陣にて、土木に関する話題について、適時、的確、平明に解説	
学会誌編集委員会	(従来通り)	土木学会誌の編集、出版



# 企画グループ

---

- 土木広報戦略の検討・立案
- 全国大会の企画等従来の本部事業
- 報道機関懇談会の開催
  - 土木学会の活動内容
  - 委員会活動の成果報告
  - 現場視察会(オリンピック関連)
  - 全国紙のみでなく、地方紙や地方局の担当者にも広報・情報共有したい

# 情報集約・発信グループ

---

- これまで、土木学会サイトの運営支援、土木学会Facebookページの運営、土木の日記念行事のライブ中継等の情報発信
- これから、土木学会・土木界の情報収集・情報集約のための連携・働きかけ、さまざまな活動の記録・蓄積
- 分析、戦略策定のもとになる情報整理
- そして、ライブ中継等タイムリーに情報発信、情報公開して、「伝わる」をモニタリング

# 社会インフラ解説グループ

---

- 目的
  - 社会資本の果たしてきた役割と意味を正しくわかりやすく伝える
- 段階的目標
  - 国土、インフラ基本情報の収集整理
  - 土木リテラシー向上に貢献する支援
  - インタープリターの養成
- 具体的活動
  - 市民や教育機関等との連携や支援
  - 多岐分野にわたる解説委員の整備
  - ネット配信→出版、市民講座等

# 土木広報アクショングループ

- 目的

- ①アクションプランの理解増進

- 土木界をあげた広報という認識の共有拡大

- ②アクションプランのフォローアップ

- 産学官、各自の得意分野における広報活動／できている取組み、できていない取組み／連携強化する取組み、立ち上げを検討する取組み

- 当面の活動

- ①土木界をあげた広報という認識を広めるために

- 足元の学会地方支部との連携、関係協会との連携／広報担当者間の情報交換のしくみづくり

- ②アクションプランのフォローアップのために

- 33メニューの実行状況／それぞれの主体がどんな活動しているか

- 実施状況を土木広報戦略会議に報告／連携して活動を進化・深化させる取組みの発掘／活動が手薄な取組みの発見、てこ入れ

# 市民交流グループ

---

- ミッション
  - 市民と土木界との交流により、土木への理解や親しみを促す
  - 土木の日／未来のT&I／市民普請／土木コレクション／土木カフェ
- 基本方針
  - 市民目線で取り組む
  - もともと関心がないことを前提に
  - 知らせたいことではなく、知りたいこと
  - 市民の価値観を前提に
  - カッコよく(デザインにこだわる)

# 市民交流グループ 土木の日実行グループ

- これまでの土木の日実行委員会の取り組みを引き継ぐ
- 支部での展開を基本に
- 全土木の取り組みへ



BS朝日「週間記念日」2015年11月15日(日)11:55～12:00放送予定

# 100周年事業の成功例に学ぶ

- 統一ロゴ、統一キャッチコピー
- 100周年事業Webサイト
- 支部との連携強化、支部部会によって深まった絆
- 土木界の一体感醸成
- 社会貢献、市民交流事業の展開
- 出版、新聞、放送、観光業界への展開
  - ドボジョ(清文社、イカロス出版、在京各局)
  - 土木チャンネル(建設三紙)
  - 土木コレクション(地方紙、地方放送局)
  - 土木ツアー(JTB、ユナイテッドツアーズ、在京各局)
- 土木コレクションのクリアファイル、図録販売、市民アンケート
- 未来のT&Iコンテスト、市民普請大賞の運営、映像記録
  - 日本建設業連合会、日本科学未来館との新たな関係

# 100周年記念事業のうち 土木広報センターが継続する事業

100周年記念事業	事業内容
未来のT&Iコンテスト	100年後に実現したい夢のテクノロジーとアイデアの公募から技術検討
市民普請大賞	すぐれた市民普請(市民主導の公共事業)の発掘、応援
土木コレクション HANDS+EYES	明治から昭和初期の手書き図面と未来的土木事業の巡回展示(ドボコレ)
どぼくカフェ	土木に関する話題提供を人が行き交うまちなかのオープンな場所で
土木ツアー	土木構造物、土木遺産を媒体に土木を知って親しみ身近にするツアー



# 今年度の活動例

# 未来のT&Iコンテスト



JSCE 100th ANNIVERSARY 

Think Innovative. Think Infrastructure. Take the Initiative on our future society.

土木の未来を創る  
 新しいヒラメキ求む

**小学生(部門)**  
 作品募集 2014.4.30まで

**「未来のT&Iコンテスト」開催**  
このコンテストは、2014年11月に100周年を迎える「土木学会」が土木関係者以外にも広く社会へ、そして未来を担う子供たちへも向け開催する記念事業です。未来を創造する力(企画力・実行力・総合力)のすべてを兼ね備えた土木の迫力を社会に発信することを目的として起られた、T(テクノロジー)とI(アイデア)の2つの部門のうち、アイデア部門にて小学生からの新しいアイデア作品を募集します。

**賞品**  
 総額100万円相当の旅行券  
優秀以上の5チームを対象に「土木名勝を巡るツアー」にご招待

**Idea**  
 アイデア部門  
 「自分たちが創ってみたい未来」の夢のアイデア募集

選考委員長：毛利衛氏  
  
 日本科学未来館館長・宇宙飛行士

作品無断転載や公開転載、注釈事項などは別紙の応募(原稿)用紙をご覧ください。

■問い合わせ  
 公益社団法人 土木学会  
 「未来のT&Iコンテスト」事務局  
 〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内  
 Tel:03-3355-3441(9:00-12:00, 13:00-17:00)

**毛利衛**

**小学生のみなさんへ 毛利衛さんからのメッセージ**  
 こんにちは、日本科学未来館館長の毛利衛です。  
 皆さんは「土木」と聞いて何を思い浮かべますか？  
 あまりなじみのない言葉かもしれませんが、道路や鉄道、空港や港、ダム、私たちが災害から守られる堤防などはすべて土木の力でできています。また、普段使っている電気や水道なども土木の力で変えられています。  
 私たちの社会や地球の未来は、土木という科学技術と切り離しては語れないのです。そんな「土木」の力を使って、皆さんの夢を未来に実現するチャンスがここにあります。  
 皆さんは将来、どんな町、どんな日本、どんな地球に住みたいですか？  
 「自分たちが住みたい未来の社会」について一緒に考えてみませんか？  
 皆さんの夢が広がるアイデアをたくさんお寄せください。絵でも文章でも構いません。わくわくするようなアイデアには、それを実現するためにどんな技術が必要で、どんな研究をすればいいのか、土木の専門技術者が特別に一緒に考えてくれます。  
 ぜひこのチャンスを生かしてください。  
 私と一緒に未来を考えましょう。コンテストへの応募をお待ちしています。

- 小学生を対象としたアイデア部門のコンテストとする予定。
- 開催頻度は、3年に1回とする。次回は2017年、次々回は2020年。

# 市民普請大賞全国交流会議2015

主催：公益社団法人 土木学会  
**市民普請大賞 全国交流会議2015**  
 8月22日(土)～23日(日) 静岡県三島市  
 テーマ：「市民普請」力で地域を創る！

「市民普請」とは、『市民が主導的な役割を果たしながら、地域を豊かにするために実践する公共のための取り組み』です。  
 土木学会では、2014年、創立100周年記念事業として、「市民普請大賞」を創設しました。全国に公募し、2回の公開審査を経て、NPO法人グラウンドワーク三島(静岡県三島市)が、グランプリを受賞しました。  
 今回、「市民普請」の社会的役割と可能性を学ぶために、全国各地の市民が三島に集い、グラウンドワーク三島の視察や他地区との情報交換を行う、「全国交流会議2015」を開催します。  
 より豊かな地域づくりは、地域住民の創意工夫とアイデア、具体的な行動にかかっています。活発な議論と成功モデルの相互学習を通して、地方再生の処方箋と市民普請力の潜在力を考えましょう。

**参加者募集中**  
 市民普請

**1日目 全体会** 8月22日(土) 会場：日本大学国際関係学部 三島駅北口校舎  
 ◆10:00～14:45 エクスカーション(三島市内・グラウンドワーク三島実践地視察・体験)  
 ◆15:00～17:45 基調講演「市民普請と地方創生」  
 講師 石田 東生氏(筑波大学大学院システム情報工学研究科教授)  
 事例発表「市民普請大賞の受賞者活動の成果発表」(3団体)  
 NPO法人グラウンドワーク三島、NPO法人道普請人、京都府立室津高等学校建築科  
 パネルディスカッション「市民普請力の役割と可能性とは」  
 パネリスト 事例発表の3団体  
 廣瀬 典昭氏(土木学会会長)  
 コメンテーター 石田 東生氏  
 コーディネーター 梶子 敏雄氏(東京工業大学大学院教授、市民普請大賞審査委員長)  
 ◆18:15～20:30 交流会・市民普請談義

**2日目 分科会・全体会** 8月23日(日) 会場：三島市民文化会館、三島市民生涯学習センター  
 ◆9:30～12:00 分科会「市民普請力で地域を元気にする処方箋とは何か」  
 ◆13:00～15:00 総括セッション  
 分科会をまとめて「市民普請」のノウハウと手法を共有化  
 宣言「市民普請」の社会的役割を全国にアピール

**参加費：一般500円、高校生以下無料(2日目弁当700円)**  
**別途 エクスカーション1,500円、交流会3,000円**

主催：公益社団法人 土木学会  
 共催：NPO法人 グラウンドワーク三島、ガーデンシタニシマ推進会  
 後援：三島市

### 市民普請大賞 全国交流会議2015 開催概要

**■日時：**  
 2015年8月22日(土)～23日(日) 2日間  
**■会場：**  
 ◆1日目：日本大学国際関係学部三島駅北口校舎(三島市文教町1-9-18)  
 ◆2日目：三島市民文化会館(三島市一番町20-5) 三島市民生涯学習センター(三島市大宮町1-8-38)

**■プログラム：**  
**1日目 全体会 8月22日(土) 10:00～20:30**  
 第1部 10:00～14:45 (日本大学国際関係学部三島駅北口校舎前集合、バス移動)  
 ◆エクスカーション ※**服装はご持参ください**  
 グラウンドワーク三島のプロジェクト実践地視察(源兵衛川、三島梅花潭の里、境川、清住緑地等) フィールドワーク(源兵衛川環境改善活動、松毛川千年の森づくり、竹林伐採と植樹等)  
 第2部 15:00～17:45 (日本大学国際関係学部三島駅北口校舎1階山田顕義ホール)  
 ◆基調講演「市民普請と地方創生」  
 石田 東生 氏(筑波大学大学院システム情報工学研究科教授)  
 ◆事例発表「市民普請大賞の受賞者活動の成果発表」  
 グランプリ：NPO法人 グラウンドワーク三島 渡辺 豊博 氏(専務理事)  
 準グランプリ：NPO法人 道普請人 榎林 良典 氏(理事) 京都府立室津高等学校建築科 大槻 駿 氏(3年生)  
 ◆パネルディスカッション「市民普請力の役割と可能性とは」  
 パネリスト 事例発表の3団体  
 廣瀬 典昭 氏(土木学会会長)  
 コメンテーター 石田 東生 氏  
 コーディネーター 梶子 敏雄 氏 (東京工業大学大学院教授、市民普請大賞審査委員長)  
 第3部 18:15～20:30 (日本大学国際関係学部三島駅北口校舎7階学生食堂)  
 ◆交流会・市民普請談義  
 ※お酒・お菓子・おつまみなど、各地の特産品をお持ち寄りいただければ幸いです

**2日目 分科会・全体会 8月23日(日) 9:30～15:00**  
 第4部 9:30～12:00 (三島市民文化会館、三島市民生涯学習センター)  
 ◆分科会 「市民普請力で地域を元気にする処方箋とは何か」 ※分科会ごとにテーマを分けて議論  
 第5部 13:00～15:00 (三島市民文化会館・大ホール)  
 ◆総括セッション  
 ◆各分科会をまとめて「市民普請」のノウハウと手法を共有化  
 ◆宣言「市民普請」の社会的役割を全国にアピール  
**■定員：250人**

**■参加費：**

	一般	高校生以下
参加費(資料代)	500円	無料
1日目エクスカーション	1,500円	無料
1日目交流会	3,000円	—
2日目弁当	700円	700円

**■申し込み：**グラウンドワーク三島事務局にお申込みください。  
**■締切日：2015年8月14日(金)**  
 ※ご宿泊…8月22日(土)は三島市内の宿泊施設が混雑しております。近隣地域を含めてご検討ください。

**■会場案内図** ※お車でのご来場は近隣有料駐車場をご利用ください

**■参加申込書**【締切：2015年8月14日(金)】 ⇒ FAX 055-973-0022、Eメール info@gwmishima.jp

ふりがな お名前	性別	□男	□女
	年齢	10代	20代
		30代	40代
		50代	60代以上
住所	〒		
連絡先	電話	携帯電話	
	Eメール	FAX	
団体名	部署・役職等		
参加・ 弁当希望 (○印)	8/22 第1部 エクスカーション	8/22 第2部 基調講演等	8/22 第3部 交流会
	8/23 第4部 分科会	8/23 第5部 総括セッション	8/23 弁当注文(700円)
通信欄			

**【申込み・問合せ】** NPO法人グラウンドワーク三島 事務局  
 〒411-0857 静岡県三島市芝本町7-11 電話 055-983-0136(平日9:00～17:00) FAX 055-973-0022  
 メールアドレス info@gwmishima.jp ホームページ http://www.gwmishima.jp/





# どぼくカフェ (関東支部スチューデントチャプター)

## 第4回 どぼくカフェ in TOKYO

知ってるようで知らない『どぼく』の話を面白く・楽しく・カフェ形式で!

講演者 / 磯部 祥行 (いそべ やすゆき) 氏 (実業之日本社)

テーマ / 旧道・現道・新道  
三世代の道路で楽しむ「どぼく」

クルマで道路を走っているとき、ふと、トンネルの横に、山肌を縫うようにつけられた道を見ることがありませんか? 橋のはるか下に、別の小さな橋がかかっていたりしませんか? それは、かつて物流を支えた古い道。またトンネルも橋も狭くて短く、道は急カーブ・急勾配だった。その古い道と今の道の違いは? 道路は素晴らしいエンターテインメント、発見連続注意!

**トンネル内通行注意**

道路の歴史は改良の歴史。地図と写真を使い、旧々道・旧道・現道を見て、なぜそのように付け替えられたのかを見ていきます。山岳路であれば九十九折れの隘路から長大隧道に、橋であれば谷底に降りていた道が大スパンのアーチで一跨ぎに。交通量が逼迫すれば、抜本的に別の場所にバイパスを作る。それに気づくと、道の歴史だけでなく、集落の歴史にも気づくことができます。そんなことを、スライドで楽しくお話ししたいと思っています。

■開催日時 2015年7月3日(金) 18:00~19:30  
 ■開催場所 SHIBaura HOUSE 1F (東京都港区芝浦3-15-4)  
 JR 田町駅芝浦口より徒歩7分、都営三田線・浅草線 三田駅A4出口より徒歩10分  
<http://www.shibaura-house.jp>  
 ■参加資格 大学生以上  
 ■定員 60名(事前申し込み(先着順))  
 ■参加費 無料  
 ■応募要領 参加ご希望の方は、往復ハガキまたはE-mailにて下記事項をご記入の上、お申込み下さい。  
 [住所、氏名、年齢、所属(勤務先、大学等)、連絡先(当日も連絡がつくよう携帯など)]  
 〒160-0017 東京都港区左門町6-17 YSKビル5F  
 土木学会関東支部「どぼくカフェ」係  
 TEL: 03-3358-6620 / E-mail: doboku.cafe.kanto@gmail.com  
 ■申込・問合せ 〒160-0017 東京都港区左門町6-17 YSKビル5F  
 土木学会関東支部「どぼくカフェ」係  
 TEL: 03-3358-6620 / E-mail: doboku.cafe.kanto@gmail.com  
 ■募集期間 平成27年6月11日(月)~ (定員に達し次第募集終了)  
 主催/土木学会関東支部 共催/土木学会

## 第5回 どぼくカフェ in TOKYO

題目: マンホール: 足元に広がる奥深い世界

白浜 公平 様 (駅からマンホール管理人)  
『始めるなら今! ~ マンホール蓋を愛でる趣味の現状』

内山 真喜子 様 (株式会社G&U技術研究センター)  
『進化するマンホール』

■開催日時 2015年12月11日(日) 18:00~19:30  
 ■開催場所 SHIBaura HOUSE 1F (東京都港区芝浦3-15-4)  
 JR 田町駅芝浦口より徒歩7分、都営三田線・浅草線 三田駅A4出口より徒歩10分  
<http://www.shibaura-house.jp>  
 ■参加資格 大学生以上  
 ■定員 60名(事前申し込み(先着順))  
 ■参加費 無料  
 ■応募要領 参加ご希望の方は、往復ハガキまたはE-mailにて下記事項をご記入の上、お申込み下さい。  
 [住所、氏名、年齢、所属(勤務先、大学等)、連絡先(当日も連絡がつくよう携帯など)]  
 〒160-0017 東京都港区左門町6-17 YSKビル5F  
 土木学会関東支部「どぼくカフェ」係  
 TEL: 03-3358-6620 / E-mail: doboku.cafe.kanto@gmail.com  
 ■申込・問合せ 〒160-0017 東京都港区左門町6-17 YSKビル5F  
 土木学会関東支部「どぼくカフェ」係  
 TEL: 03-3358-6620 / E-mail: doboku.cafe.kanto@gmail.com  
 ■募集期間 2015年11月11日(日)~ (定員に達し次第募集終了)  
 主催/土木学会関東支部 共催/土木学会

## 第5回 どぼくカフェ in TOKYO

題目: マンホール: 足元に広がる奥深い世界

白浜 公平 様 (駅からマンホール管理人)  
『始めるなら今! ~ マンホール蓋を愛でる趣味の現状』

内山 真喜子 様 (株式会社G&U技術研究センター)  
『進化するマンホール』

■開催日時 2015年12月11日(日) 18:00~19:30  
 ■開催場所 SHIBaura HOUSE 1F (東京都港区芝浦3-15-4)  
 JR 田町駅芝浦口より徒歩7分、都営三田線・浅草線 三田駅A4出口より徒歩10分  
<http://www.shibaura-house.jp>  
 ■参加資格 大学生以上  
 ■定員 60名(事前申し込み(先着順))  
 ■参加費 無料  
 ■応募要領 参加ご希望の方は、往復ハガキまたはE-mailにて下記事項をご記入の上、お申込み下さい。  
 [住所、氏名、年齢、所属(勤務先、大学等)、連絡先(当日も連絡がつくよう携帯など)]  
 〒160-0017 東京都港区左門町6-17 YSKビル5F  
 土木学会関東支部「どぼくカフェ」係  
 TEL: 03-3358-6620 / E-mail: doboku.cafe.kanto@gmail.com  
 ■申込・問合せ 〒160-0017 東京都港区左門町6-17 YSKビル5F  
 土木学会関東支部「どぼくカフェ」係  
 TEL: 03-3358-6620 / E-mail: doboku.cafe.kanto@gmail.com  
 ■募集期間 2015年11月11日(日)~ (定員に達し次第募集終了)  
 主催/土木学会関東支部 共催/土木学会

# どぼくカフェ(関西支部FCC)

## どぼくカフェ

FORUM CIVIL COSMOS

土木の日関連行事

第20回の特選メニュー

### 欧州ドボクデザイン紀行 in 大阪 —インフラの眺めから地域を捉えよう—

話題提供者：八馬 智さん (千葉工業大学)

日時：平成27年7月16日(木) 18:00～19:30

会場：Loop A (大阪市西区南堀江1丁目1番7号 三角公園西徒歩1分  
・阪神高速1号環状線高架下) <http://www.loop-a.jp>

**入場料  
無料**

ドボク鑑賞の達人、八馬さんが「ヨーロッパのドボクを見に行こう」を出版されたのを機に、ついに、どぼくカフェに登壇いただけます！インフラツーリズムの実践ガイドブックともいえるべき、この本のもとになった大量のスライドを紹介いただき、土木そして地域固有のエッセンスをいっしょに読み取ってみましょう。

主催：FCC

後援：「土木の日」関連行事関西地区連絡会 (国土交通省近畿地方整備局、西日本高速道路関西支社、(独)水資源機構関西支社、(独)都市再生機構西日本支社、(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構大阪支社、本州四国連絡高速道路南、阪神高速道路局、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都府、大阪府、神戸市、堺市、新関西国際空港㈱、(一社)日本建設業協会関西支社、(一社)日本橋梁建設協会近畿事務所、(一社)建設労働組合近畿支部、(一社)JF 以心社(ナット建設業協会関西支部、(一社)鋼管材・鋼矢張技術協会、(一社)日本建築建設協会関西支部、(一社)日本理立深協会近畿支部)

ブログ  
<http://www.voluntary.jp/fcc-kansai/>

ホームページ  
<http://www.fcc-kansai.com/>

## どぼくカフェ

FORUM CIVIL COSMOS

土木の日関連行事

第21回の特選メニュー

### 小さな島とドボク

池島小中学校所蔵

話題提供者：小島 健一さん (長崎大学 インフラ長寿命化センター)

日時：平成27年7月31日(金) 18:00～19:30

会場：Loop A (大阪市西区南堀江1丁目1番7号 三角公園西徒歩1分  
・阪神高速1号環状線高架下) <http://www.loop-a.jp>

**入場料  
無料**

土木とはまったく縁のなかった小島さんは、土木現場見学に衝撃を受け、見学団体「社会見学に行こう！」を立ち上げられた、大人の社会見学の火付け役です。その後、地域おこし協力隊として炭鉱の島「池島」に移住され、見学に迎えられる側から迎える側へ、「池島」のドボクを中心に、小島さんが今まで見てきたドボクを語っていただきます。

主催：FCC

後援：「土木の日」関連行事関西地区連絡会 (国土交通省近畿地方整備局、西日本高速道路関西支社、(独)水資源機構関西支社、(独)都市再生機構西日本支社、(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構大阪支社、本州四国連絡高速道路南、阪神高速道路局、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都府、大阪府、神戸市、堺市、新関西国際空港㈱、(一社)日本建設業協会関西支社、(一社)日本橋梁建設協会近畿事務所、(一社)建設労働組合近畿支部、(一社)JF 以心社(ナット建設業協会関西支部、(一社)鋼管材・鋼矢張技術協会、(一社)日本建築建設協会関西支部、(一社)日本理立深協会近畿支部)

ブログ  
<http://www.voluntary.jp/fcc-kansai/>

ホームページ  
<http://www.fcc-kansai.com/>



# どぼくカフェ

## (中国支部が主催、関西支部が協力)

土木イメージアップシンポ関連企画 in 鳥取

### どぼくカフェ



**ダムめぐりは楽しい!**

日時：平成26年10月25日(土) 18時開演  
 会場：鳥取駅前バードハット(<http://www.eki.or.jp/>)  
 話題提供者：萩原雅紀 (ダム愛好家)  
 コーディネータ：高橋良和 (どぼくカフェ主催者/京都大学)

プログラム

1. 「どぼくカフェとは？」高橋良和
2. 「ダムめぐりは楽しい！」萩原雅紀

入場無料、当日自由にご参加ください。

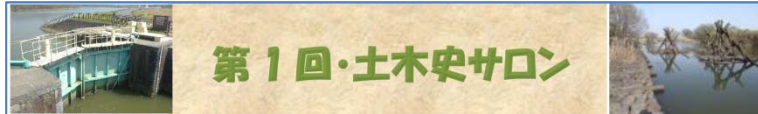
主催：(公社) 土木学会中国支部 協力：(公社) 土木学会関西支部FCC

話題提供者略歴：<http://damsite.m78.com>  
 ダム趣味者なら知らぬものはないダム愛好家のカリスマ。写真集「ダム」(メディアファクトリー、2007)、映像作品「ザ・ダム」(アルバトロス、2006)など、著書・作品多数。

入場料 無料

100 土木学会  
2014年に百年

# 土木史サロン(土木広報センター共催)



～土木の歴史に学び、現在、そしてこれからの社会を考える～

近年、日本の近代化を支えた施設が世界遺産になるなど、今まで光のあたらなかった施設にスポットがあたりつつあります。この点、土木遺産も日本の国づくりを支えたインフラ施設として注目されつつあります。

そこで、2015年 日本国際賞を受賞された高橋 裕 東京大学名誉教授をお招きし、土木史的な思考の意義と役割についてご講演を頂きます。

加えて、東日本大震災の被害にあった貞山運河、北上運河、野蒜築港、石井閘門等の被害調査・修復工事等に尽力された東北大学 後藤光亀先生にもご参加頂き、土木遺産の現状とその活用について、現場サイドからのご意見を紹介して頂きます。

また、私たちの暮らしと密接に関わってきた“土木の歴史”を多くの方々に理解して頂くために、土木史のアニメ「水と戦った戦国の武将たち」をご覧頂きます。さらに、市民講座等で活動されている緒方英樹広報小委員会委員長、最近では観光資源としての活用や熱心なファンの増加も注目されるダムと文化について活動されている中野朱美さん、国内だけでなく海外における先進事例にも精通した岡田昌彰土木史研究委員会幹事長が参集して、“土木史研究”を今後の社会にどう活かしていくかを議論して頂くことにしています。ご多忙中とは思いますが、このようなメンバーが一堂に会し土木史のあり方を議論する機会が少ないと思えます。是非ご参加下さい。

**特別講演** 13:35-14:25 (50分)

「土木史的思考の意義と役割」

高橋 裕 (2015年(第31回)日本国際賞受賞・東京大学名誉教授)

**報告** 14:25-15:05 (40分)

「東日本大震災被害状況調査からの教訓」

後藤光亀 (東北大学大学院工学研究科准教授・土木学会選奨土木遺産選考委員会委員)

**映像** 15:05-15:25 (20分)

「水とたたかった戦国の武将たち」

監修 高橋 裕/企画・脚本 緒方英樹

**パネルディスカッション** 15:35-17:00 (85分)

「現在、そしてこれからの社会に、土木史研究をどう活かすか」

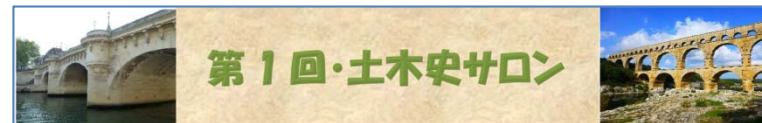
パネリスト： 高橋 裕 (東京大学)、後藤光亀 (東北大学)、中野朱美 (日本ダム協会)  
緒方英樹 (広報小委員会委員長、上記映像作品の企画者)

コーディネーター  
岡田 昌彰 (近畿大学 理工学部社会環境工学科 教授、土木史研究委員会幹事長)

2015年11月11日(水) 13:00開場 13:30開演 17:00終了  
土木学会講堂 (JR 中央線・地下鉄丸ノ内線・南北線「四ツ谷」駅下車5分)

アクセス: <http://www.jsctact/map.shtml>

主催 公益社団法人 土木学会土木史研究委員会  
共催 土木広報センター



「土木の歴史に学び、現在、そしてこれからの社会を考える」

## ■プログラム■

■ 開会挨拶 13:30-13:35 (5分)

天野 光一 (土木史研究委員会委員長)

■ 特別講演

「土木史的思考の意義と役割」 13:35-14:25 (50分)

高橋 裕 (2015年(第31回)日本国際賞受賞・東京大学名誉教授)

■ 報告

「東日本大震災被害状況調査からの教訓」 14:25-15:05 (40分)

後藤光亀 (東北大学大学院工学研究科准教授・土木学会選奨土木遺産選考委員会委員)

■ 上映作品 15:05-15:25 (20分)

「水とたたかった戦国の武将たち」あらずじ; 戦国の武将たちは、城や道路をつくり、河をおさめ堤防を築き、領土と住民を守る一方で、自然と国を治めることに力をそそいできた。信玄の業績「信玄堤」を取り上げたアニメ。第20回土木学会映画・ビデオコンクール優秀賞 20分

休憩 10分

■ パネルディスカッション 15:35-17:00 (85分)

「現在、そしてこれからの社会に、土木史研究をどう活かすか」

パネリスト候補者

高橋 裕 (東京大学)

後藤光亀 (東北大学)

中野朱美 (日本ダム協会)

緒方英樹 (上記映像作品の企画者)

コーディネーター

岡田 昌彰 (近畿大学、土木史研究委員会幹事長)

■ 土木史関連の書籍や写真パネルの展示 (講堂前ロビー)

■ 申込先

土木学会ホームページよりお申し込みください。

<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>

※お申込み後、メール参加券をお送り致しますので、プリントアウトして当日ご持参下さい。

申し込み多数の場合は先着順とさせていただきますので、予めご了承ください。

主催 公益社団法人 土木学会土木史研究委員会  
共催 土木広報センター



# 土木の日シンポジウム

土木学会 土木の日・本部事業



## 土木の日シンポジウム

日時：平成27年11月18日(水) 13時50分～

場所：土木学会講堂 (東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内)

お申込：<http://www.jsce.or.jp/event/>

参加費  
無料

第一部 13:50～

### 討論会 「土木と市民参加」

2014年、100周年を迎えた土木学会。新しい土木の形をめざし、101年目のスタートを切りました。恒例の土木の日シンポジウムでは、「市民参加」をテーマに、皆さんと土木学会のあり方を議論したいと考えています。

**話題提供** 桑子敏雄 (東工大教授) 「市民普請・取り組みと意義について」  
 依田照彦 (早大教授、土木広報センター長) 「土木広報センターの役割」

**討論会** 廣瀬典昭 (土木学会会長、日本工営会長)・熊本義寛 (JR東日本、100周年事業実行委員会幹事長)・島谷幸宏 (司会・九州大教授)

第二部 16:20～

### 土木偉人映像展 「久保田豊」

映像展では、鴨緑江・水豊ダムの建設、また建設コンサルタント会社日本工営の創始者としても知られる「久保田豊」を取り上げます。映像鑑賞後、河川工学の大家、高橋裕先生(東京大名誉教授)より、久保田の功績にまつわるご講演をいただきます。



**久保田豊** 1890(明治23)年熊本県生まれ。東京帝国大学(工学部土木工学科)を卒業後、日本窒素肥料株式会社の取締役を経て、朝鮮電業株式会社社長に就任。朝鮮半島・鴨緑江における水豊ダム開発など、大規模水力発電施設の建設に携わる。戦後、建設コンサルタント会社、日本工営を設立。東南アジアでの水力発電所建設等、世界を舞台にさまざまなプロジェクトの実現に尽力。(日本工営株式会社HP参考)

**高橋裕** 1927年静岡県生まれ。東京大学第二工学部土木工学科卒。専門は河川工学。東京大学教授、芝浦工業大学教授を経て東京大学名誉教授、国際連合大学上席学術顧問。主な著書としては、「国土の変貌と水害」岩波新書、「河川工学」東京大学出版会、「都市と水」岩波新書、「川に生きる」山海堂など。2015年、Japan Prize受賞。

土木学会2014年度第26回映画コンクール 最優秀賞 受賞作品

**「お日様の昇る穴と沈む穴を見に行きたいなあ」**

推薦の言葉 (東京大学名誉教授 高橋裕)  
 ダムを敬ぶとする総合開発の巨人 久保田豊は、日本で生んだ最初の国際的技術者である。戦前は朝鮮半島北部で、世界最大規模の水豊ダムなど前人未踏の企画力を発揮。戦後はコンサルタント会社、日本工営を設立し、ミャンマー、ベトナム、ラオス、インドネシアなどアジア各国から、ガーナなどアフリカに至るまで、まさに世界を駆けめぐって海外技術協力の父とよばれ、コンサルタントの国際社会においても、最も優れた技術者として、高く評価されている。  
 久保田は、それぞれの国づくりの貢献、事業立案から実現までのリーダーシップが特別に評価されている。久保田の抜群の気力、企画力、実行力こそ、今回作成されたアニメ映画によって深く感賞されることを念願して止まない。

**夢は世界を駆けめぐる**  
 ～海外技術協力のパイオニア～  
 文部科学省 選定作品  
 公益社団法人 土木学会 選定作品

夢は世界を駆けめぐる  
海外技術協力のパイオニア

**伝説の土木技術者、久保田豊って、どういう人?**  
 平面の地図も、豊の目には立体に映っていた!

朝鮮半島に昇る穴、沈む穴の夢を見て、未来への夢をふくらませる豊少年。小樽築港の広井勇次郎のもとで土木工学を学び、大学の先輩であるバタ達河で活躍した青山士(山崎)が台湾で水利事業を展開した八百屋一の偉業を知り、「自分も先輩のように世に於いて、土木技術で人々の役に立ちたい」と強く願った。豊が目にしたのは水力発電。「ダムを作り、発電で得た電気で工業を起こし、人々の暮らしを豊かにしよう」と決意し、本郷の地に分け入りダム建設に挑戦。二つの国にまたがる水豊ダムを完成させ世界を驚かした。

戦後、コンサルタントという仕事を第二の人生に選び、開発途上国のインフラ整備に尽力。また国連アジア計画調査部長としてリーダーシップを発揮、96歳で亡くなるまで、生涯を土木の仕事にかけた。

この作品は、久保田豊の足跡を、日本工営株式会社の特別協力を得て、アニメーションドラマと、ドキュメンタリー映像でつづった作品です。小学生から一般までご覧いただける内容となっています。  
 (2014年・日本・21分・カラー・ステレオ)

(制作スタッフ) ■企画: 熊本・徳方実樹 (土木学会社会・コミュニケーション委員)  
 ■監修: 高橋 裕 (東京大学名誉教授) ■監製: 島谷 幸宏 (制作局/河川工学)  
 ■制作: 虫プロダクション株式会社 ■特別協力: 日本工営株式会社

久保田豊  
【昭和23年】熊本県阿蘇郡生まれ  
 【大正3年】東京帝国大学土木工学科卒業  
 【昭和22年】日本工営株式会社創設、世界の開発途上国にダム、水力発電所建設に尽力  
 【昭和61年】逝去(96歳)

ここは、火の国・熊本。阿蘇の大自然に包まれて育った少年の名は、久保田豊。自然の美しさ、怖さを見て育った少年は、「人を幸せにする土木の仕事をしたい!」とこころざし、土木技術者の道を志した!!

虫プロダクション株式会社

MP3/MP4	COLOR	STEREO	2ch	3D(3D+2D)	字幕	制作協力: 徳方実樹
16:9	LBR	MPEG	AVC	NTSC	DVD	MP4

■ 虫プロダクション株式会社 03-3990-4153

# 土木学会Facebookページの行事チラシ



# 「土木」ということばについて

工事件名	「いいね！土木」どれが好き？
工事場所	土木学会全国大会 2015 岡山大会
 <b>土木 どぼく</b> <b>ドボク DOBOKU</b>	
施工者	土木学会 土木広報センター

# 土木 どぼくドボク DOBOKU?



2015年11月4日

第43回報道機関懇談会「土木広報センターの役割について」

28

# 土木の新しい説明の提案(試案)

どぼく【土木】
提案1：“広辞苑”等の中型国語辞書への掲載イメージ
<p>① 人間と自然が共存する豊かな文明社会の創造を目的とする学問。</p> <p>② 道路・鉄道・下水道・港湾など、社会資本の整備や機能維持を通じて、国民生活を豊かにし、経済活動を支える行為。</p>
提案2：“新明解国語辞典”のように読んで楽しい辞書への掲載イメージ
人間や社会を自然の脅威から守り、人間の行動および社会活動を円滑化し、かつ向上させるための学問。または道路・鉄道・下水道・港湾など、社会資本の整備や機能維持を通じて、これらの目的を果たすための行為。
提案3：ごく平易に表現した辞書への掲載イメージ
自然災害から人を守り、住み良いまちをつくり、快適な生活を支えるとともに、自然と調和した美しい国土をつくり、社会・経済を活発にするための学問。または道路・鉄道・下水道・港湾など、社会資本の整備や機能維持を通じて、これらの目的を果たすための行為。
提案4：小学生向けの辞書への掲載イメージ(小学校4年生までの配当漢字で作成)
地しん、つ波、台風などの自然さい害から人を守り、自然を大切にしながら、人びとが気持ちよく生活できるまちづくりの方法を考えることや、出かけやすさ、物の運びやすさなど、世の中を活発にするような仕組みを考えること。またはこれらの目的のため、道路・鉄道・下水道・港などをつくること、こわれたりいたんだりした部分を直すこと。